

島根県立隠岐島前高等学校

離島発 グローバルな地域創生を実現する「グローバル人材」の育成

【構想の概要】

本校が目指すグローバル人材像は「地球的視野で考えながら、足元から実践していける人材」であり、同時に「ふるさとや地域を想いながら、世界中で実践者として活躍できる人材」、すなわち「グローバル人材」である。「グローバル人材」の育成には通常の教科に加えて、実際にフィールドに出て学べる機会をより多くつくり、グローバルとローカルの両方のセンスを体験的・実践的に学ぶ必要がある。そこで、課題研究テーマとして、隠岐島前地域に実在する課題でもあり、実際に地球と地域を結び付けて思考・実践できるテーマを設定し、グローバル人材に必要な力と位置づけている「多文化協働力」、「グローバルビジョン創造力」、「探究的学習力」、「社会的自立力」、「地域起業家精神」の基礎を3年間で構築することを目指している。

離島発 グローバルな地域創生を実現する「グローバル人材」の育成



■教育課程表（平成30年度入学生）

学年	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32																														
	1年	国語		公民	数学		理科		保健体育	芸術	外国語		特別	学 習 的 時 間	H R																
	国語総合		現代社会	数学Ⅰ	数学A	数学Ⅱ	生物基礎	化学基礎	体育	音楽Ⅰ 書道Ⅰ 工芸Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	地域生活学 (保健・家庭)																		
2年	国語		特別・地歴	数学	選択A	理科	選択B	体育	外国語		特別	H R																			
	現代文B (α,β,γ)	古典B (α,β,γ)	①グローバルストーリーA ②グローバルストーリーB ③グローバルストーリーC ④グローバルストーリーD ⑤グローバルストーリーE ⑥グローバルストーリーF ⑦グローバルストーリーG ⑧グローバルストーリーH ⑨グローバルストーリーI ⑩グローバルストーリーJ ⑪グローバルストーリーK ⑫グローバルストーリーL ⑬グローバルストーリーM ⑭グローバルストーリーN ⑮グローバルストーリーO ⑯グローバルストーリーP ⑰グローバルストーリーQ ⑱グローバルストーリーR ⑳グローバルストーリーS ㉑グローバルストーリーT ㉒グローバルストーリーU ㉓グローバルストーリーV ㉔グローバルストーリーW ㉕グローバルストーリーX ㉖グローバルストーリーY ㉗グローバルストーリーZ	数学Ⅱ (α,β,γ)	①数学B(α,β) ②数学C(α,β,γ) ③数学D(α,β,γ,δ)	科学と人間生活 生物 植物 動物 地学	①倫理 ②歴史学探究 ③情報処理 ④生活と福祉	体育	コミュニケーション英語Ⅱ (α,β,γ)	英語表現Ⅱ (α,β,γ)	地域生活学 (録音・情報・総合的な学習の時間)																				
3年	国語		特別・地歴	数学	選択DE	選択F	選択GH	選択I	選択J	保健体育	外国語		総合的な学習の時間	H R																	
	現代文B (α,β,γ)	古典B (α,β,γ)	①グローバルストーリーA ②グローバルストーリーB ③グローバルストーリーC ④グローバルストーリーD ⑤グローバルストーリーE ⑥グローバルストーリーF ⑦グローバルストーリーG ⑧グローバルストーリーH ⑨グローバルストーリーI ⑩グローバルストーリーJ ⑪グローバルストーリーK ⑫グローバルストーリーL ⑬グローバルストーリーM ⑭グローバルストーリーN ⑮グローバルストーリーO ⑯グローバルストーリーP ⑰グローバルストーリーQ ⑱グローバルストーリーR ⑳グローバルストーリーS ㉑グローバルストーリーT ㉒グローバルストーリーU ㉓グローバルストーリーV ㉔グローバルストーリーW ㉕グローバルストーリーX ㉖グローバルストーリーY ㉗グローバルストーリーZ	①数学Ⅲ ②数学探求A(α,β)	①数学探求B(α,β) ②数学探求C(α,β,γ) ③数学探求D(α,β,γ,δ) ④数学探求E(α,β,γ,δ,ε) ⑤数学探求F(α,β,γ,δ,ε,ζ) ⑥数学探求G(α,β,γ,δ,ε,ζ,η) ⑦数学探求H(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ) ⑧数学探求I(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι) ⑨数学探求J(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ) ⑩数学探求K(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ) ⑪数学探求L(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ) ⑫数学探求M(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν) ⑬数学探求N(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ) ⑭数学探求O(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η) ⑮数学探求P(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ) ⑯数学探求Q(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι) ⑰数学探求R(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ) ⑱数学探求S(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ) ⑲数学探求T(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ) ⑳数学探求U(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν) ㉑数学探求V(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ) ㉒数学探求W(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η) ㉓数学探求X(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ) ㉔数学探求Y(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι) ㉕数学探求Z(α,β,γ,δ,ε,ζ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ,λ,μ,ν,ξ,η,θ,ι,κ)	①物理 ②生物	①コミュニケーション英語Ⅲ (α,β,γ)	英語表現Ⅱ (α,β,γ)	地域生活学 (録音・情報・総合的な学習の時間)																						

総合的な学習の時間を軸とした探究

本校では SGH 以前より 1～3 年次において総合的な学習の時間「夢探究」を実施している。

夢探究 I (1 年次) は place - based learning と位置づけ、互いの個性や島前地域について理解を深め、地域で暮らす大人を講師に招いて地域課題について学び、チームビルディングや協働的探究学習の体験を積み基礎をつくる構成となっている。

夢探究 II (2 年次) は problem - based learning として同一のチーム (4 人) で約 1 年間、実在する課題解決の企画立案のみならず実践まで求める地域課題解決型の探究学習を行う。全校生徒の半数が島留学生という特徴を活かし、チームは地域内外出身の生徒が混ざり合うように構成し、「異なる視点や考え方を持つ他者」との協働を通じて、協働的・探究的学習を体験的に学ぶよう設計されている。11 月のシンガポール海外研修では現地大学生に対してプレゼンテーションを行い、フィードバックを得る機会を設けている。

夢探究 III (3 年次) は project - based learning として、個人の意志に基づくプロジェクトや進路探究の時間と位置づけている。地域を巻き込んだプロジェクトや進路情報の収集、学習計画立案、志望動機書や小論文の練習など、これから必要となる活動を自身で計画し、自律的に探究する時間としている。

学年部でのカリキュラム・マネジメントと教員の生徒への関わり方

これらの協働的探究学習は、各学年部 (10 名程度) を中心に進めており、キャリア教育主任とコーディネーターが複数で 3 学年を横断的・俯瞰的に関わっている。

授業時間割の中に打ち合わせの時間が設けられており、その週の授業の振り返りや生徒・チームの状況把握をした後、次回の授業にどのように反映させるか PDCA サイクルを高速で回している。教員のみならず社会人経験豊富なコーディネーターが関わることで学校外にある様々なリソースへのアクセスが可能になるだけでなく、生徒の幅広いニーズへの対応も可能となっている。

2 年次の協働的探究学習では、教員は極力生徒の活動を妨げないようにしている。たとえ課題設定がうまくいかずにチーム活動が滞っていたとしても助けを求められない限りは基本的には動かない。「困ったときこそ自分を開いて助けを求めに来てほしい」というメッセージは伝え続け、門戸を開いている。これは将来困ったときにこそ自分を開き、他人に頼ることを実践してもらいたいからに他ならない。

協働的探究学習と他教科のつながり

2 年次のシンガポールでの英語プレゼンテーションの際には情報科や英語科の協力を得て、効果的な英語プレゼンテーションの仕方などについて協働的探究学習と連携しながら活動を行うことで、フィードバックも得やすい体制を構築している。

その他の科目に関しても、学習者同士の学び合い (生物基礎・数学) や教科に関連した探究学習 (生物基礎探究・科学と人間生活)、論述形式試験問題の採用 (グローバルヒストリー) など、各科目が日常的に協働力や思考力の養成を軸に置いて、協働的探究学習との連動を意識した授業展開を実施している。同時に、探究学習の方法論や評価に係る教員研修を年に数回実施している。

取り組みを通しての成果・今後の課題

SGH に指定されてからの数年間は、まさに「社会に開かれた教育課程」を地域と協働しながら構築してきたことが最大の成果である。

とくに本校における協働的探究学習のスタイルを確立できたこと、また、それを複数教員で多面的に指導できる体制が構築できたことは成果と言える。

学習プログラムが地域から世界へと視点を移し、また地域に戻ってくるように設計されていることで地域社会や国際社会を比較したり、自分なりに貢献したいというビジョンの醸成にもつながっている。

課題としては、明確な評価を開発できていないことである。協働的探究学習のルーブリックは作成したが毎年改善が必要な状況であり、学年によってはピア・メンタリングで生徒が相互に評価する方が効果的なこともある。引き続き探究が必要である。